

書芸術における古代文字を用いた表現活動
～個からコラボレーションへの展開～
(県内5高等学校写真部、越前和紙作家、
県立若狭高校、青森県立青森第一高等養護学校との交流)

特別奨励賞



福井県 県立嶺北特別支援学校
教諭 渡辺 陽子

「今日は、何の字を書くの?」「僕は、この漢字を書きたいなあ。」と、廊下で待ち構える子どもたち。発声が困難な子は、書きたい文字を指差します。はらい・はねの筆遣いが苦手と感じる子も含め、子どもたちは、古代文字と出会って、思いのままに自己表現し、書表現を楽しんでいます。近年は、古代文字を媒体に地域の芸術家や県内外の同年代の他校生と交流し、子どもたちは共同作品の制作・展示を通して、多くの人たちと笑顔でつながりました。その後の卒業生を含めた創作も続いています。

同一の特別支援学校にて長年にわたり書教育に携わり、校内外の多くの皆様から御協力、御支援を賜りました。このたびの受賞も、その賜物と感謝申し上げます。

1 実践の概要

平成16年度から、特別支援学校の児童生徒も思いのままに自己表現できるよう、白川文字学を活かした、古代文字を題材とした書作品の制作に取り組んだ。近年は、地域の芸術家や県内外の同年代の他校生と交流、共同制作等を行い、コミュニケーション能力の向上を図る。完成した共同作品は、県立図書館をはじめ、県内多数の方々へ鑑賞していただける会場にて展示した。

2 実践の内容

(1) H28年度 福井県高文連

特別支援学校部会レベルアップ事業

「ふるさと福井 紡ぐ」制作

～ 越前和紙作家(長田和也氏)

写真(県内5高校〔三国・丹生・丹南・武生工業・美方〕写真部)

古代文字書(本校高等部 2年生21名)コラボ ～ (サイズ3.5m×3.5m)

本校生徒の「越前」「三国」等の古代文字書に対して、写真部生徒からそれぞれの書に合わせたい写真が寄せられた。それら全ての作品を越前和紙作家が和紙にすき込み、一つのオブジェとした。



(2) H29年度 若狭高校、青森第一高等養護学校との交流・書作品制作(下中科学研究助成)

○交流生徒:本校高等部1年 女子1名 男子3名 計(4名)

○交流相手校:福井県立若狭高校(書道部1,2年生 28名)青森県立青森第一高等養護学校(書道部、書道選択生 9名)

共同作品を制作し、日々の活動の様子を互いに紹介して交流を図った。



3 実践の成果

古代文字書道の表現活動の場は学内の作品制作から、地域社会へも広がった。生徒たちは、共同作品制作を通して創造の喜びを障害のあるなしに関係なく、同年代の他校生や地域の作家と共有し交流を深めた。遠隔地校とは、ビデオレターや作品の交換なども行い、互いの作品に込めた思いや願いを知り親睦も深まった。生徒たちは「協力して制作し完成した時の感動は一生忘れない」「また作品を交換して仲良く交流したい」「交流の輪がひろがっていくといいな」などと感想をもった。

また、他校の書技能・表現力の高さに触発され、書字への関心も高められた。人と関わる貴重な体験を通して、様々な機会に高評価をいただくことができ、生徒たちは、自己有用感を感じ、次回への制作意欲を高めている。卒業生を含む知的・発達障害者の創作活動も継続しており、自己を表現する機会を持つことによって日々の生活に潤いや豊かさを実感できるようになったと考える。